SORA
web magazine 2017.sep. vol.90

Philippines Travel
Bohol

前回の SORA では、新しいダイビングエリアとして、パミラカンを紹介した。しかし今回は、
またボホールの魅力の原点、バリカサグにスポットを当てて、その魅力を十二分に紹介したい。
長年世界中のダイバーを魅了してきたバリカサグの現在の素顔を、ぜひ御覧ください。

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP CLICK!

ボホール・NOVAビーチリゾート発!
やっぱりすごい! バリカサグの魅力!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
World explorer
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2017
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

Philippines Travel

Bohol

フィリピン・ボホール

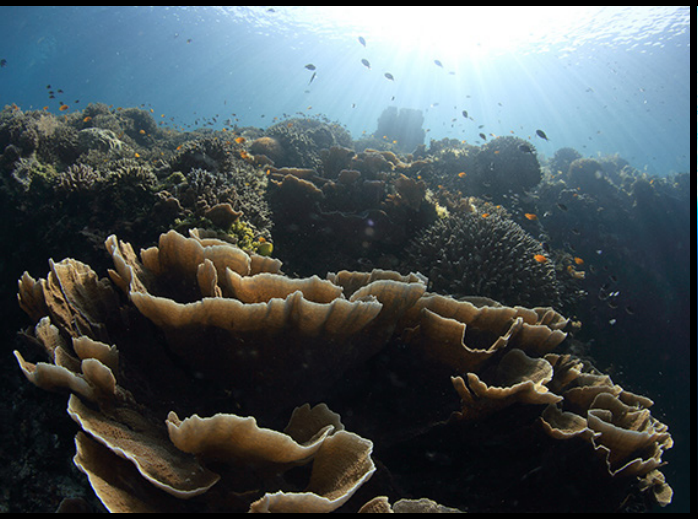
やっぱりすごい！
バリカサグのギンガメアジ

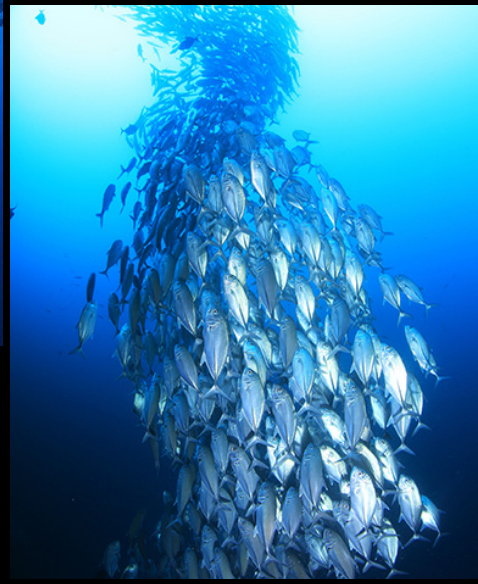
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Philippines Travel

Bohol

フィリピン・ボホール





リゾートから約40分先にあるお魚パラダイス

バリカサグ島に来たら、やっぱり会いたいギンガメアジの群れ。最近のギンガメアジは、サンクチャリとカテドラルと言うポイントを行き来しているということ。エントリーして、浅瀬をドロップオフに泳いでいく。豊かなサンゴ礁に小さなリーフフィッシュが群れている。朝早い時間は光がちょうど逆光になっているので、目の前に広がる景色はシルエットの世界。それがいつも見ている景色とはまた違い、新鮮で美しい。約10分ほど進んでいくと、ガイドさんの鈴の音が響く。ゆっくり接近していくと、大きな滝のように流れ落ちるギンガメアジの群れが目の前に接近していた。先に潜っていたゲストダイバーがギンガメアジに囲まれている。さぞ幸せな時間のはず。私もゆっくり近づき、様々な形に変形していくギンガメアジを堪能。群れは上下に移動を繰り返し、一番深い場所で水深27m。何度もギンガメアジに会ってきたが、やはり何度会っても感動する。撮影し終えた画像を眺めながら安全停止まで、ギンガメアジのまるで宇宙のような大きな渦の写真を見ながら、これをSNSに上げたら、ダイバー以外の友人からもたくさんの「いいね」や☺をもらえるだろうな、と嬉しくなった。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

草原にカメ・カメ・カメ

Philippines Travel

Bohol

フィリピン・ボホール

今、最もカメが見られるポイントは、ずばりロイヤルガーデン。水深 5m ほどの浅瀬は広い運動場のようになっていて、そこは一面の藻場。その藻を食べに、たくさんのアオウミガメが集まっている。エントリーして、まずブイ下にトオアカクマノミのコロニーを見せてもらう。そのイソギンチャクには、大きなペアの個体以外にも若いトオアカクマノミがたくさんいて、草原の中の仲の良い家族のようでとても微笑ましい。また、卵があったのでカメラを持ってその前で構えていると、目の前まで親のクマノミがやってきて、卵の世話をする。その愛情溢れる行為に心が温かくなる。トオアカクノミを夢中で撮影していると、ガイドのけいこさんが、あっちもと指をさす。その先には、どーん！　大きなアオウミガメがもしゃもしゃと藻を食べていた。ゆっくり接近していくと、目の前に行くことを許してくれた。カメが引っこ抜いた後に何か隠れていないかな?とトカラベラがカメの周囲を泳ぐ。時折2匹がにらめっこしているようで、とても可愛いかった。そして潮の流れに身を任せて進んでいくと、どんどんカメが現れる。本当は、ドロップオフまで足を延ばす予定だったけど、カメがあまりにも出てくるので、ずっと浅瀬の藻場の上で１ダイブを過ごした。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

ロイヤルガーデンで見つけた ハナダイの花吹雪

Philippines Travel
Bohol
フィリピン・ボホール

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく
We World explorer

ノバビーチリゾート
小高い丘の上に建つダイブリゾート

　建築士でもあるオーナーの河村さんが設計したダイバーのためのリゾート。海に面した小高い丘の上に建つ。緑溢れる敷地内は、プールを真ん中に各ヴィラとシーサイドレストラン&シーサイドテラスが展開する。ヴィラは、シーサイドヴィラ、NOVAヴィラなど幾つかのタイプがあり、計7部屋。少し奥まった場所のデラックススーペリアは4部屋（2部屋はロフト付き）、ロフト付きのデラックスルーム4部屋などがある。セミデラックスルームは2部屋で、ダイバーにはこれらのカテゴリーの客室も人気があり、現在新しいセミデラックスルームを2部屋作成している。シーサイドレストラン&シーサイドテラスから海を一望することができ、朝や夕方、ダイビングの合間など、気がつくとここから海を眺めていることが多い。日常を忘れられる空間。食事は、ゲストの人数によってビュッフェまたセットメニューとなる。基本的に、フィリピン料理で、日本食のテイストが含まれる。ダイビング以外のアクティビティとして、ターシャやチョコレートヒルへの観光やショッピングツアー、リゾートでのスパやマッサージなども用意されている。

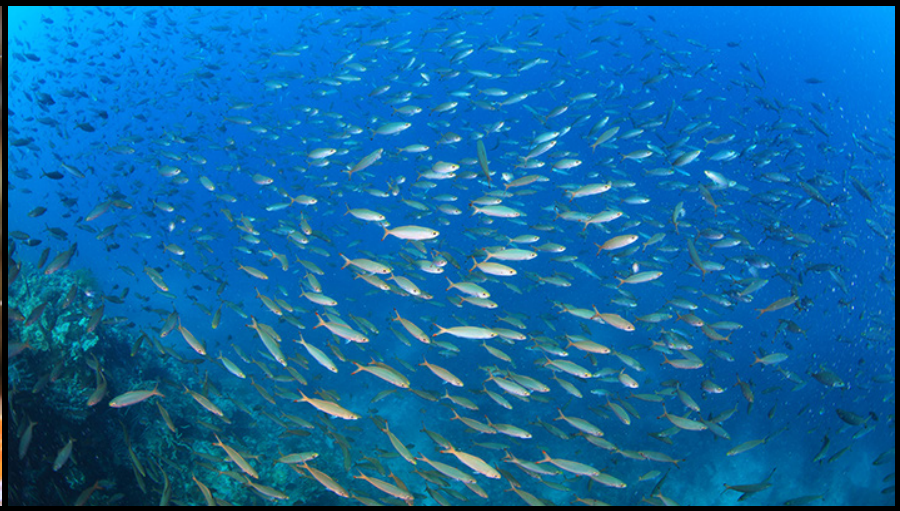
Philippines Travel
Bohol
フィリピン・ボホール

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Philippines Travel

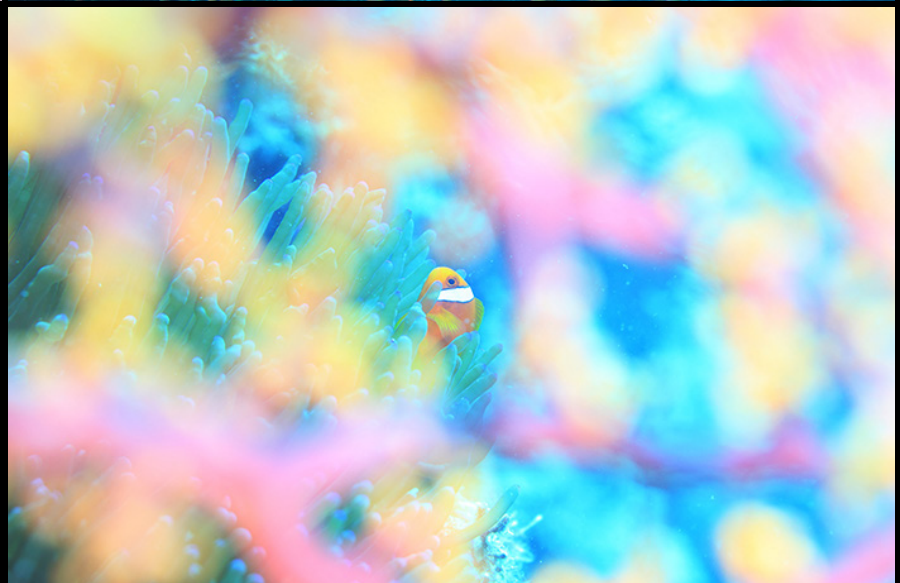
Bohol

フィリピン・ボホール



パングラオ島の南側のポイント
アロナビーチ前

ボホールで有名なビーチであるアロナビーチの前もダイビングのポイントになっていて、ここもとても興味深いポイント。リゾートからボートで5分ほど。水深5mの棚から約21mに落ち込む垂直の壁を潜る。壁にはホヤ、ウミシダ、ウミウチワなどが群棲し、とてもカラフル。背景を気にしながら撮影するフォト派ダイバーに人気の壁でもある。そこにキャンディケインドワーフゴビーやベニハゼ系の仲間などがいるので、カラフル+カラフルの写真が撮れる。また水底には、スパゲティガーデンイールの群れが見られる。あまり逃げないので、その面白い姿をじっくり見られるかも。またブルーウォーターには、ハナムロの仲間を追いかける中型のアジの編隊も見られた。パングラオのポイントは、西からカリパヤン、アロナビーチ前、アロナサンクチュアリ、ロックビュー、ノバハウスリーフ、ホヨホイイースト、サンライズ、BBC、アルコと並んでいる。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Philippines Travel

Bohol

フィリピン・ボホール

ノバビーチリゾートの前は噂のハウスリーフ

　緩やかな傾斜が続き、浅瀬の海草域からサンゴ礁、そして砂地と徐々に変わる環境を楽しむことができる。ハウスリーフだけど、水深30mまで簡単にいくことができる。面白いのは、水深15～20m付近でリングアイジョーフィッシュ、カニハゼ、ニチリンダテハゼ、スパインチークアネモネフィッシュなどが見つかる。今回はガイドのけいこさんが、ニシキフウライウオなどを見つけてくれた。このハウスリーフは、早朝は6時半から、イカダダイブでエントリーするのが名物になっていて、朝生まれたての海を爽やかな気持ちで楽しむことができる。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

昨年に続き、お気に入りのパミラカンへ

Philippines Travel
Bohol
フィリピン・ボホール

リゾートからボートで約1時間北上した位置にあるパミラカン。バリカサグとは反対方向にあり、まだあまりダイバーが訪れていない未開のダイビングエリア。今回も前回と同じ、サイトAからダイビングを始めた。海底には一面の素朴なベージュ色のソフトコーラルが群棲する。所々に生えるナンヨウキサンゴやスリバチカイメンに、カラフルなウミシダが咲き誇り、そこにメラネシアンアンティアスやデバスズメダイが彩りを添える。その様子が、まだ誰の手にも触れたことのない無垢な感じがして、昨年とても感動したのを覚えている。そして記憶を辿りながら、素敵なメインの根に到着。昨年よりも少しハナダイの数は減ったように思えたが、変わらずお魚たちの楽園として存在し続けていた。

2本目はサイトBに潜った。ゆっくりと潮の流れに少し逆らいながら、根の先端に。ムレハタタテダイなどが群れている。ここも変わらずナンヨウキサンゴの森にハナダイが群れている。よく見ていくと大きな丸いサンゴなどもあり、サイトAよりも水中景観のバリエーションは豊富かもしれない。アオウミガメ、オオモンカエルアンコウのペアなどもガイドのロンロンに見せてもらい、手付かずで無垢な海底・パミラカンでのダイビングを終えた。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

最終ダイブで驚いた スネークアイランドの実力!

Philippines Travel
Bohol
フィリピン・ボホール

パミラカンの帰り、リゾートの方に向けてボートを走らせる。しかしパングラオのエリアではなく、沖合のスネークアイランドというポイントに向かった。昨年潜った時は何種類ものベラがフラッシングし、かなりのベラ祭りを楽しめたポイント。今回もマクロレンズのカメラを抱えてエントリー。最初はマクロでごちゃごちゃ撮影していたが、よく見ると一面の青いスズメダイとメラネシアンアンティアスの群れ。これはワイドかな?とカメラを交換。そしてよく見ると、カラフルなソフトコーラルなどが海底を覆っている。後で聞いてわかったことだが、昨年とは潜るエリアが違うとのこと。どう見ても、手付かずの自然で、お魚たちがカメラを構えて逃げない……スレてない???　目の前にやってきてくれる素直なお魚たちに感謝しながら、最後の最後にド派手な写真を撮影してしまった。大満足でボートに戻り、キャプテンに「ここが良い!　来年もまた、ここのポイントのここにピンポイントでボートをつけて!」とお願いした。ボホールの海の懐の深さに今年も参った3日間でした（笑）。

tsumi-shima
ダイバーの夢つみあげていく島
We World explorer